

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072800804		
法人名	有限会社 創生活環境運営		
事業所名	グループホームひだまりの里とよしな		
所在地	安曇野市豊科高家782-2		
自己評価作成日	平成26年 9月 5日	評価結果市町村受理日	平成27年1月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成26年12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームではお一人お一人がいつまでも「らしく生きたい」を持ち続けられるように、様々な場面で可能な限り寄りそい、意向をはかりながら日々の生活の中で良好なパートナーとして各職員が尽力しています。職員の職務は業務優先よりも、その場の利用者様に対して関わりを深める事を優先し、生活の支援を行うことを心がけています。家族的な関わり方や環境作りにも心がけ介護のプロとして各職員がスキルアップに向けた取り組み(勉強会・社内研修・社外研修・チームでの課題検討会議)にて資質向上をはかっています。24年度より看取り支援を実施することができ、最後までその人らしくいられる温かい家であることを実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの外窓には利用者が常に眺め親しんでこられた常念岳を望み、周辺には地域の菜園や公園が隣接して自然豊かな環境の中にグループホームひだまりの里とよしなが設置されている。「共助の精神」のもと、支えあい、地域社会の中で共に暮らす。をスローガンにして設立後9年目を迎え利用者を中心に描かれた共助、公助、自助を活用しつつグループホームひだまりの里とよしな、の良好な運営に取り組まれている。地域密着型サービスの役割を考えながら事業所独自の「理念」を作成して職員間で共有して質の確保に取り組まれている。なお事業所では「社会に貢献する人材を育てる」ために、各種職員研修制度を確立して職員の質の向上に努めている。利用者及びご家族の大きな関心と不安のひとつが、重度化した場合の対応であり、事業所では「重度化した場合の指針」を作成して事業所利用に当たり丁寧に説明をされている。職員の笑顔と心のケアのもと利用者、ご家族の安心と安定につながっている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
ユニット名(とよしな)							
項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「共生・協働・感謝」の理念をホーム内に掲示すると共に職員全員が理念の具体化に努めている。</p>	<p>法人社は「共生・協働・感謝」を基本としつつ地域密着型サービスの意義を踏まえたホーム独自の理念を作成されている。職員会議等で唱和して職員間で共有を図り、質の高いケアサービスの実現に向け努力をされている。なお職員採用時には必ず理念を伝え理解が得られるよう取り組まれている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>隣接している畑の方々や収穫物のやりとりや日常的な会話をしながら開放された事業所としてお付き合いをしている。地域行事にも招待・参加しながら良好的な関係を築けている。</p>	<p>ホームに隣接して区画菜園があり、日常的に利用者がホームから一歩出れば地域住民と挨拶を交わしたり、ふれあう機会が確保されている。中学生が職業体験に訪問して交流を図られている。なお地域行事(敬老会等)への参加や法人企画の地域活動を通じて人々との関わりやつながりを積極的に持つよう努めている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>年に6回の地域運営推進会議を通じて、当事業所の状況報告、地域との連携を日々模索しながら地域の公民館活動にも参加している。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を定期的開催し、取り組みについて報告や意見交換を行っている。</p>	<p>運営推進会議には、ご家族、区長、民生委員、地権者、派出所所長、地域消防団、市担当者等の参加を得て2か月に1回の頻度で開催されている。事業所の現況報告や防災訓練、敷地内の環境整備について話し合い質の向上につなげている。消防訓練前提で地域支えあい事業での購入テントを設置して、連絡会議を開催されている。</p>	<p>運営推進会議は、外部の人々を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善内容等を話し合ったり、地域の理解を得るための貴重な機会でもあり幅広い立場の人の参加が望まれる。(保育園、小中学校の関係者、馴染みの店主等)</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>同地区内の民生委員の個人的なボランティア活動などの受け入れや一般市民向けの認知症講座などの依頼があり受け入れている。</p>	<p>運営推進会議に出席のうちに事業所の運営や現場の実情を伝え理解いただける機会となっている。その中で市担当者とともに課題解決を図っていくよう取り組まれている。なお認定調査の折には利用者の日常の状態を伝える等協働関係を築かれている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>利用者様の状況により日中の安全を確保できない場合以外は開錠し、万が一の離脱対策も考えながら拘束防止のために取り組んでいる。</p>	<p>事業所利用に当たり重要事項説明書に身体拘束の具体例を明示して身体拘束のないケアの実践に努めている。なお事業所内外の研修に参加して入居者一人ひとりの身体の状態を見極めて身体拘束を必要としないケアについて勉強会を実施してケアにつなげている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>他施設やニュース、グループホーム連絡会等の情報をふまえて、事故事例会議にて検討し当施設の業務に反映させている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度に関する研修などに参加し情報共有し、またご家族からの問い合わせ等にも活用できるよう支援している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明を行い、また日常的な疑問・質問等にも答えている。家族会等でも相談できる機会を設けている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を年4回に開催している。面会時や電話等でもご家族と直接話すことでその時その時の想いや意見等を柔軟に受け入れている。</p>	<p>年4回の家族会を開催し、利用者の状態や暮らしづりを伝え、ご家族の関心や意見を引き出すよう取り組み、ご家族の意見や要望を受け柔軟に対応されている。なお利用者の思いや希望は日常的に接する中で意識的に本人が求めていることを引き出すよう努めている。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>労使委員会にて職員の意見を代表者に提案している。</p>	<p>毎月1回職員会議を開き、お互いの情報や気づきを出し合い皆で協議して運営に反映されている。なお必要に応じ管理者が職員の個人面談を実施している。若い世代との関わりに留意しながら良好な事業所運営に努めている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が自己評価表・自己啓発を使用して各職員に対して目標・実績・評価・課題共有を行っている。管理者により代表者へ報告し各職員に対して助言も行っている。また、管理者へ対しても同様に代表者が助言等行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年間ごとの研修プログラム、個人のスキルアップの為に入社から段階的な育成プログラムを進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	安曇野市を中心とする事業者連絡会、福祉施設職員との定期的な勉強会やあずみ野祭りへの共同参加など交流を深めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前見学、訪問によりご本人と話す機会を必ず設けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談、見学、訪問によりご家族と話す機会を重ねていく中で信頼関係を築いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実際に見学していただき、ご本人・ご家族と話す中で情報やニーズを聞き出し提案もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	弊社の理念、ケアの心構えに取り入れて実践している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とのコミュニケーションを重視し、利用者様を主軸に支えあう関係ができています。ご家族の喜びや不安も共に感じ相互関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活歴も配慮し、ご本人の大切な物事、人に対して継続的な関係が維持できるように支援している。	生活歴より得られた情報をもとに馴染みの友人・知人や馴染みの場所(お菓子屋、お蕎麦屋等)を周知して関係が途切れることのないよう支援されている。なお、年賀状や手紙での連絡を取り持つ支援も行われている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者関係を配慮し、適切な支援提供や孤立しないよう個別の関わりも取り組んでいる。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙での交流や相談を聞いたりしてきている。家族会行事へもお誘いしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活する中でその方が発した言葉や表情を汲み取り、その人が希望している事へ近づけるよう支援に反映している。	職員は利用者で過ごす時間を通して利用者の希望や思いを把握して個別の記録書に書き留めている。なお、思いや希望の表出が困難な場合は訪問時や家族会等の機会を通じて、ご家族から利用者の希望などを聞くように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から状況に応じた聞き取りを行い情報収集しながら把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況・状態把握に努めて職員間で情報共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員各自が課題を出し合い、モニタリングも共有しケアカンファレンスにてケアプランを作成している。「ひもときシート」や「センター方式」を活用して、本人の意向を大切にしている。	利用者やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映されている。「ひもときシート」等を作成しアセスメントに活用し利用者と生活を共に過ごしている職員全員が観察と気づきを共有し、課題を出し合いモニタリング、カンファレンスを行い現状に即した介護計画を作成されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、業務日誌、申し送りノート等記録を残し情報共有に努め日々のケアに反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同敷地内のデイサービスとの協力でグループホームだけではない関わりも続けている。また、近くのグループホームに花火大会を見に出かけるなど交流を続けている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事へは参加を継続している。理解ある地域の協力のもと、なじみの美容院や菓子屋、地域サロンを利用しながら、楽しみのある社会参加を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診内容は家族へ電話や手紙等で説明行いながら情報提供を心がけている。必要に応じてご家族へ受診同行もお願いしていきながら適切な医療受診の調整を行っている。</p>	<p>利用者ご家族が希望されている医療機関で受診されている。事業所では協力医による受診体制もあり、定期受診や往診支援が行われている。受診後にはご家族へ電話や手紙等で説明が行われ適切な医療支援に努めている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションによる定期的健康管理、緊急対応を行っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時の家族との調整、また早期退院に向けて病院関係者、契約訪問看護師、家族と共にカンファレンスを行っている。その上で必要に応じて個別契約訪問看護等対応している。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>早期から医師を含めたカンファレンスを行っている。協力医・訪問看護との連携により見取り支援を継続している。</p>	<p>入所時の重要事項説明書に「重度化した場合の指針」を明示して説明をされている。できるだけ早期から話し合いを持ち、看取りにあたりご家族、主治医、訪問看護師とひだまりの里と連携し協力体制が築かれている。ご家族の気持ちの変化や利用者の思いに沿った看取りが行われている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に緊急時マニュアルの確認を行っている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域防災訓練に参加、災害時の地域協力態勢を築いている。緊急時連絡システムに地域の方も登録している。</p>	<p>利用者、ご家族、地域住民、消防署、消防団、警察署等の参加の昨年2回防災訓練が行われている。(うち1回は夜間想定)なお毎月1回の通報、避難訓練を行って有事に備えている。今年度初めて地域防災と一緒に合同で実施されている。防災備蓄倉庫を設置、防災タンクを設置、ヘルメット等を用意して地域の方々へも支援されている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のなじみの言葉も使いながらプライバシーの配慮、尊重をしている。	新卒の職員には初年度、接遇研修を受け事業所内で会議の折に報告をして職員間で共有されている。利用者にとっての誇りやプライバシーが見極められ、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや対応がされている。なお、居室への出入りの際は声掛けをして了解を得ている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自身の気持ち、想いを表せることができるように支援している。また自己決定できるようにわかりやすい言葉かけに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活の流れがあり、その中で一人ひとりが暮らしやすいようにその人に合わせたペースを大切にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や装飾品など本人が望む品を本人が購入できるよう支援している。なじみの美容院もありおしゃれがしやすいよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材整理から食事準備まで利用者が関わることができ、献立の希望や味付け等調理方法も利用者の意見を取り入れている。	週2～3回の食材の買い物や調理の一連の作業に利用者も関わり、調理を職員が一方的に進めるのではなく、利用者の力や希望を引き出し、満足感につなげている様子が伺えた。なお、利用者の咀嚼力、嚥下状態等日々の体調を把握して、一人ひとりに適した調理方法に配慮して提供されている。職員と一緒に食事をとることで和やかな雰囲気が見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が少ない利用者へは本人が好むもの(果物など)を提供したり、ゼリーなど補助食品も柔軟に提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>基本的には毎食後の口腔洗浄、歯磨きの声かけを行っている。義歯の洗浄を周期的に行っている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>各利用者の排泄パターンや支援のタイミングを把握して実施、見直し、実施を繰り返し支援している。</p>	<p>排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、食や睡眠の身体機能を高めることを全職員が認識されている。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して排泄の自立に向け支援に努めている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>チェック表を使用して、水分の促しや繊維質の食物の提供、日々の体操を行っている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴の希望を声かけたりしながら本人の予定と入浴時間を調整している。</p>	<p>週2回の入浴支援が行われている。清潔・整容を保つために、くつろいだ気持ちで入浴ができるよう利用者の思いに沿った入浴につなげていることを伺った。楽しい入浴になるよう季節風呂(バラ、ゆず、入浴剤等)を用意して支援されている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>体調や希望に応じて自由に居室、畳、ソファーを使い安心して休息している。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>受診時の説明は申し送りに記録し、服薬説明書はケースファイルに保管して職員全員が確認できるようになっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭、畑仕事や家事参加から自分の仕事、役割として生活に取り入れやりがいを感じてもらおう支援をしている。外気浴・散歩・音楽・カラオケなど人それぞれの楽しみ方を模索し支援している。			
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物等希望にそって外出している。遠足などの行事では利用者のニーズを聞き計画している。また、いつでも家族と共に外出できるようにしている。	屋内だけで過ごすストレスがたまりやすく、周辺症状等の憎悪や体調の不良に陥りやすいことから、利用者の意向を聞きながら外へ出かける機会を積極的に設けている。日常的な散歩(デイサービスの見送り時等)や遠足(ハマフラワープーク、バラ園、ひまわり、蓮池、桜花見ドライブ、外食等)に出かけられるよう支援されている。なお、ご家族にも声掛けをして一緒に外出できる機会をつくられている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者それぞれの嗜好品を購入する際には、可能なかぎり自分で財布を持ち、使えるよう支援し実施している。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分が話したいときに電話をして想いを話してもらっていたり、季節の挨拶のハガキを皆で楽しみながら作りやりとりしています。			
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を一緒につみ飾ったり、すごしても不快にならない環境整備に取り組んでいる。季節によって日照時間・光の強さもあるのでカーテンやすだれ等使用して快適になるよう工夫している。	共用の空間には季節がらクリスマスツリーのはり絵やシクラメンの鉢植えが飾られ季節感が得られるよう配慮されている。なお、壁面には思い出の写真を掲示して利用者が足を止めて懐かしそうに見入っていた。クリスマス近くになると室外の樹木にイルミネーションを飾り楽しまれていることを伺った。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆でくつろげる量のスペースや自由にテレビや新聞をゆっくり堪能できる環境(ソファー)を設けている。気の合う同士のテーブル席配置も日々検討している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談して利用者が居心地よく過ごせるように家具の配置や写真等々ご本人の希望や感想を聞きながら環境作りをしている。	利用者にとってかけがえのない物をご家族から教えていただき、居室に持ち込めるように支援されている。位牌、写真、家具、鉢植えの花々など思い出の品が持ち込まれ思い思いの形態に配置して過ごしやすいよう居場所づくりをされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへ通える方へは席配置を工夫して食前後など自由に行き来できるようにしている。利用者のできることを活かし家事活動や庭・畑仕事など自由に行えるように支援している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議は、外部の人々を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善内容等を話し合ったり、地域の理解を得るための貴重な機会でもあり幅広い立場の人の参加が望まれる。(保育園、小中学校の関係者、馴染の店主等)	今の会議参加者(安曇野市・豊科交番・区長・民生委員・地主・地域ボランティア・家族会長)の他により身近な協力者として、消防団・馴染の店主の方々へ参加をお願いする。	消防団については、地域合同消防訓練でも協力いただきこの機会をもって27年度からの参加を要請します。 普段交流のある馴染の商店:美容室・床屋・和菓子屋・そば屋へ27年度もしくは28年度からの参加を要請します。	3ヶ月～ 12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。